

西側やアラブ諸国の対 I S I S 有志連合

(イランラジオ日本語放送 2015.04.19 17:00)

前回のこの番組では、タクフィール主義のテロ組織 I S I S が、昨年半ばにイラクで急速に進軍した理由についてお話ししました。

今回のこの時間は、西側やアラブ諸国の対 I S I S 有志連合についてお話しします。

I S I S が進軍し、首都バグダッドの手前に到達すると、それまで以上に大きな警鐘が鳴らされました。イラクの政府や国民、地域諸国は、I S I S の急速な進軍とこのテロ組織の犯罪の拡大に驚いていました。とはいえ、地域情勢を観察していた人々にとって、西側とその地域の同盟国による I S I S の幅広い支援を考えれば、I S I S の急速な進軍は、それほど驚くことではありませんでした。I S I S は、シリアとイラクに危機を生じさせていた人々から、直接、全面的な支援を受け、世界最大のテロ組織になったのです。

西側政府は、トルコ、サウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦と共に、シリアの人々の自由の追求を支援すると主張し、I S I S をはじめとするタクフィール主義のテロ組織への支援を惜しみませんでした。これらのグループが、シリアで目的を遂げられなかった後、今度はその作戦の場をイラクに広げました。イラク中央政府の弱さ、イラク軍におけるバース党の影響力、彼らの裏切りが、イラクで I S I S が急速に進軍した主な理由でした。

しかし、I S I S が大規模な犯罪を行い、このグループが世界中で悪名を高めると、この組織を支援する国々は、困難な立場に置かれました。彼らはそれ以上、シリアの人々の民主主義と自由への支援を口実にして、I S I S を公然と支援することができなくなりました。とはいえ、アメリカをはじめとする西側政府にとって、I S I S のようなテロ組織は、自分たちの不当な利益を確保するための道具に過ぎず、そのために消費期限があります。昨年のイラクの情勢変化と I S I S の急速な進軍までは、その消費期限はどうやら切れていなかったようです。なぜなら、西側とその地域の同盟国は、シリアに危機を作り出してから 4 年経ってもなお、目的を遂げることができていなかったからです。

しかし、イラクで I S I S が急速に進軍すると、その支持者たちは、このテロ組織を制御することができなくなりました。彼らは、過去数年間の I S I S によるシリアとイラクでの大規模な犯罪への世論の嫌悪を、それ以上無視することができませんでした。西側の人質数人が首を切って殺害されたことは、I S I S を支援する国々を困惑させていました。こうして、西側とその同盟国は、地域での役割を変更せざるを得なくなりました。

アメリカのオバマ大統領は、アメリカ同時多発テロ事件から 13 年となった昨年 9 月 11 日に演説した際、I S I S に抵抗する必要性について語りました。オバマ大統領はこれについて、「我々は I S I S を弱体化させ、最終的に消滅させる」と語りました。オバマ大統領は、アメリカのシリアでの戦略が、アサド政権の崩壊を目指してテロ組織を支援することである中で、I S I S との対抗について語っています。アメリカのゲーツ元国防長官は、オバマ大統領の I S I S との戦いにおけ

る目標は実現不可能なものだとし、「オバマ大統領は、野心的な目標を明らかにしているが、私に言わせれば、このような状況の中で、その目標の実現は現実的ではない」と述べました。ゲーツ元国防長官はさらに、「オバマ大統領が、I S I Sの根絶に関する目標について語るとき、これまでに動員してきた手段では、それを実現するのは不可能だと考える」と語りました。

アメリカの新聞ロサンゼルス・タイムズは、アメリカのI S I Sとの戦いについて次のように報じています。「アメリカ大統領による、アメリカ主導のI S I Sとの戦いに関する発言は欺瞞である」

アメリカの政府高官の発言やメディアの分析は、アメリカが、I S I Sの根絶を真剣には望んでいないことを物語っています。I S I Sに対抗するために結成された対I S I S有志連合は、この組織の結成が、政治やプロパガンダの目的を持っていたことを明らかにしています。

ヨーロッパでは、フランスとイギリスが、対I S I S有志連合で積極的な役割を担っています。注目に値するのは、I S I Sのヨーロッパ人のメンバーの多くが、これらの国の出身者であることです。1月に起こったパリでのテロ事件の前まで、I S I Sは、SNSを通じてヨーロッパ諸国から簡単に戦闘員を集めていました。I S I Sのメンバーとなったヨーロッパ人も、シリアやイラクと自国を容易に行き来していました。彼らがシリアやイラクに行ったり、ヨーロッパに戻ったりするために主に利用していたルートは、トルコです。彼らの多くは、トルコのキャンプで訓練を受けた後、シリアやイラクに向かっていました。

パリでのテロ事件後、ヨーロッパの治安体制が強化され、ヨーロッパ諸国はI S I Sの脅威に対抗するための決断を余儀なくされました。しかし、こうした政策は、ヨーロッパ諸国が、中東地域のテロや暴力、過激派との対抗に真剣に取り組むようにアプローチを変更したことを意味してはいません。I S I Sは今日、中東のテロや過激派の象徴になっており、アフリカではボコハラムです。しかし最近までは、アルカイダがテロや過激派の象徴でした。

フランスやドイツといったヨーロッパ諸国は、もし真剣にテロとの戦いを追求するのであれば、様々な宗教や国民に対する、あらゆる形のテロを非難すべきです。I S I Sのテロ行為が、まだ西側諸国の人々にまで及んでいなかった頃、なぜ、この組織のシリアやイラクの人々に対するテロは、非難されるどころか、シリアの人々の民主主義と自由の追求の代償と見なされ、シリア政府を打倒するために、I S I Sが支援されていたのでしょうか？これこそが、西側政府による良いテロと悪いテロの分割です。

シリアで起こっていることは、真の意味のテロです。しかし、西側諸国は、今もシリアに対する態度を改めておらず、彼らはシリア政府に反対する穏健なグループを支援すると発表しています。しかし、シリアの反体制派のいわゆる穏健なグループに対する西側の武器の支援が、I S I Sの手に渡っています。こうした西側政府の行動は、対I S I S有志連合の結成が、政治やプロパガンダに利用し、世論を欺くためのものであることを示しています。

サウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦、その他のI S I Sを支援するアラブ諸国が、対

ISIS連合に加わっていることにより、この連合の結成の目的には疑念が生まれています。サウジアラビアのワッハーブ派の宗教指導者・ムフティは、ISISにインスピレーションを与えています。ISISのメンバーは、サウジアラビアのワッハーブ派の宗教指導者の教令により、自分たちの犯罪を合法的なものであるように見せています。サウジアラビアの王子たちの資金や武器の支援がなかったら、ISISは、世界最大のテロ組織になることはできませんでした。アメリカのバイデン副大統領は、これについて注目に値する発言を行っています。

バイデン副大統領は、ハーバード大学での講演で、次のように語っています。「残念ながら、トルコをはじめとする中東のアメリカの同盟国が、ISISという名のテロ組織の誕生に関与した」

バイデン副大統領はさらにこう続けています。「トルコ、サウジアラビア、アラブ首長国連邦は、シリアのアサド大統領との戦争を目論むすべての人々に、大量の武器と数億ドルの資金を提供していた」バイデン副大統領はまた、このように語っています。「サウジアラビア、アラブ首長国連邦、その他の中東地域の国々は、シリアのアサド政権を転覆させるため、シーア派とスンニー派の代理戦争を開始しようとした。彼らは、外国からアルカイダやヌスラ戦線に加わるためにやって来た人々を支援し、外国から、これらのグループに加わろうとする過激派を歓迎した」

西側の地域の同盟国に反する発言を行っているのは、バイデン副大統領だけではありません。元イラク駐留イギリス軍司令官は、これにつて、次のように語っています。「サウジアラビアとカタールは、ISISに資金を提供している」イギリスの新聞デイリーテレグラフも、カタールの中央銀行が、イラクとシリアで活動するテロリストに資金を提供していることを明らかにしました。

<http://bit.ly/10x1WGw>

西側がISISの消滅に真剣に取り組まない理由

(イランラジオ日本語放送 2015.04.26 20:58)

今回のこの時間は、西側の政治家の間に、テロ組織ISISを消滅させるための真剣な意志が存在しない理由について見ていくことにいたしましょう。

これまで2回に渡り、昨年半ばにISISが急速に進軍し、恐ろしい犯罪を行うことによって人々の間に植え付けてきた恐怖についてお話ししました。また、西側政府がアメリカが主導する対ISIS有志連合に加わった理由についても触れました。この有志連合は、その結成当初から、果たして本当にISISに対抗する意志があるかどうか強く疑われていました。

以前の番組の中で、ISISとアルカイダが、ワッハーブ派の思想によって生まれたものであることをお話ししました。その思想は、現在、サウジアラビアの統治政権であるサウード家の決定や思想の基盤となっています。サウジアラビアのサウード家とワッハーブ派は密接に結びついており、決して切り離せないものです。

アメリカ、サウジアラビア、トルコを中心とする西側とアラブ諸国は、4年前、シリアに危機を作り出し、アサド政権を転覆させるための連合を結成しました。I S I Sも、この連合の賜物であり、サウジアラビアとアメリカの大規模な支援を受けてイラクに作り出され、その後、シリアの政権転覆という西側とアラブ諸国の目的のために、このグループの作戦は、シリアへと拡大されました。

トルコとサウジアラビアは、テロとの戦いを主張する西側政府の政策に沿って、シリアのタクフィール主義のテロ組織への支援を惜しみませんでした。I S I Sを使った政策は、このグループの犯罪と恐ろしいイメージを植え付けることであり、それによって彼らは、シリアとイラクでの占領地を拡大しようとしていました。このような政策は、このタクフィール主義のテロ組織の本質を、世界の世論、特に中東地域の人々の前に明らかにしました。

アメリカとヨーロッパや中東のその同盟国にとって、シリアの人々の自由追求を支持するという名目で、タクフィール主義のグループへの支援を公然と続けることは、不可能になっていました。そのため、アメリカとその同盟国は、I S I Sとの関わり方を変更することを余儀なくされました。アメリカが関わり方を変更したことを受け、その同盟諸国も、表面的にその政策を変更しました。しかし、トルコはその変更を受け入れず、いわゆる対I S I S連合に加わろうとはしませんでした。それはなぜでしょうか？トルコは、I S I Sに資金や武器が供与され、シリアやイラクのI S I Sに加わるために世界各地から欺かれた人々がやって来るための通過点となっていたからです。

対I S I S有志連合が結成された目的について、強い疑いを抱かせる理由の一つは、トルコがこの連合に加わらなかったことでした。中には、「対I S I S有志連合は、I S I Sの拠点を何度も空爆したのだから、これは彼らが、真剣にI S I Sに対抗しようとしていることを示している」と考える人がいるかもしれません。しかし、I S I Sをはじめとするタクフィール主義のテロ組織が、シリアとイラクで、サウジアラビアとトルコの代理として戦っていたときまで、彼らはそれによって、最低限の犠牲によって、地域で自分たちの目的を果たすことができると考えていました。ところが、シリアやイラクの人々のタクフィール主義グループに対する抵抗により、アメリカとその同盟国は、自分たちの目的を果たすことができなかったのです。

アメリカとその同盟国は、タクフィール主義のグループを通して自分たちの目的を実現することに失敗したため、直接、中東に介入し、今度は、シリアの人々の自由追求への支援ではなく、テロとの戦いを名目にする一方で、中東への軍事介入を、自国の世論のために正当化しようとしていました。アルゼンチンのフェルナンデス大統領は、昨年9月に国連総会で行った演説の中で、この西側の欺瞞的な政策を攻撃しました。フェルナンデス大統領は次のように語っています。

「我々は、昨年もここに集まり、あなた方は、シリアのアサド政権は独裁政権であると主張した。当時、あなた方はシリアの反体制派を支援していた。あなた方は、革命家を主張する反体制派を支援していたが、現在はどうしたのか。我々は再びここに集まっている。だが今度は、昨年まであなた方が支援していた革命家たちを弾圧するためである。ただし、今年、我々は、その革命家たちがテロリストであることを確信している。そのためあなた方は今、昨日まで革命家と呼ばれていたグループの多くが、実際は活発なテログループであること、彼らが過激派

から、非常に過激的なグループに立場を変えたことを悟っているはずだ」

アルゼンチンの大統領は続けて、「ISISやアルカイダは、どこから武器を手に入れているのか？ 最近まで、自由を求める闘争家であった人々が、今はテロリストである」とし、アメリカ政府の政策を強く批判しました。

この発言は、今も世界には、誠意を持って、アメリカとその同盟国の目的を公の場で明らかにする政治家が存在することを示しています。しかし、西側のメディアでは、このような政治家の発言が報道されることはありません。

西側政府はこれまで、ISISとの闘争を、空爆に限定しようとしてきました。しかし、何度も空爆が行われたにも拘わらず、この攻撃はISISの戦闘力に大きなダメージを与えてはいません。それと共に、「ISISとの戦争は長期戦になる」とするアメリカ政府高官の発言は、西側政府のISISとの闘争における目的について、疑いを抱かせる根拠となっています。非常に強力な治安・諜報機関を持ち、声だけでテロリストを識別できる40もの国が集まった連合が、なぜ、資金や武器の供給源を断ち、その拠点を特定することによって、彼らを攻撃することができないのでしょうか？ これについて答えるためには、アメリカがパキスタンでアルカイダの指導者、オサマ・ビン・ラディンをどのように特定し、彼を捉えて殺害する最終作戦の模様を、ホワイトハウスの人々にどのように生中継で伝えたかに注目するだけで十分でしょう。

西側政府が望めば、シリアとイラクのISISの通信網を崩すことは簡単です。しかし、現在、そのような動機は存在しません。なぜなら、彼らは今も、シリアで自分たちの目的を果たすことが出来ていないからです。彼らは、シリアの政権転覆という目的が失敗したにも拘わらず、なおも、シオニスト政権イスラエルとの闘争におけるイスラムの抵抗の流れを弱めるため、シリアの政権の交代について語っています。

ISISは、西側政府、トルコ、サウジアラビアの“シリアの政権転覆”という目的を達成させることができませんでした。彼らは今も、ISISに象徴されるテロとの戦いを口実に、シリアとイラクでの軍事作戦を正当化できると考え、それによって、自分たちの目的を果たそうとしています。アメリカとその同盟国は、そのために、ISISに深刻なダメージを与えて、その戦闘力を麻痺させようとはしていないのです。

対ISIS有志連合の真剣な意志を疑わせるもう一つの理由は、数年前から、タクフィール主義のテロ組織への対抗戦線にいた国々が、この有志連合に参加していないことです。イランは、シリアとイラクの政府、両国の国民の抵抗を軍事顧問としての立場から支援し、タクフィール主義のテロ組織の進軍を妨げ、多くの拠点からの撤退を余儀なくさせました。このような抵抗がなかったら、シリアとイラクは別の状況に陥っていたことでしょう。

アメリカとその同盟国は、イラクとシリアでの過ちを償うことを受け入れ、ISISとの闘争において誠実な目的を持っていれば、イランとシリアの政府に、対ISIS有志連合への参加を呼びかけていたはずですが。しかし、彼らはそうしませんでした。なぜなら、彼らの真の目的は、ISI

Sと戦うことではないからです。

対ISIS有志連合へのサウジアラビアの参加を、どうしたら信じられるでしょうか？ISISの思想は、ワッハーブ派を基盤としています。サウジアラビア人数千人が、ISISに加わっています。サウジアラビアの政権は、中東地域におけるアメリカの政策の実行者です。イランはそのような連合に参加することなどできません。もし参加が呼びかけられていたとしても、イランは、対ISIS有志連合の結成の本質を知っていたため、それに参加することはなかったでしょう。

<http://bit.ly/1GkS0vx>

テロとの戦いにおけるイランの役割

(イランラジオ日本語放送 2015.05.03 21:25)

テロ組織ISIS <http://bit.ly/1DY3zbn>

これまで10回にわたってお送りしてきたこの番組も、今夜が最終回となります。この番組では、ISISの真の姿を明らかにし、ISISやこの組織と思想を共にするテログループが、イスラムの公正や平和を追求し、人間を形成する教えとは、何の関係もないことを明らかにすることを目的としていました。

ISISや、この組織と思想を共にするテログループは、共通の思想的な基盤を持っており、共通の源から、思想、資金、武器を手に入れています。これまでの番組の中で、このようなグループの結成と装備、利用における、アメリカ、イギリスやフランスといったヨーロッパ諸国、そしてサウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦、トルコといった地域の同盟国の役割についてお話ししました。今夜の番組では、地域のテロとの戦いにおけるイランの類まれな役割についてお話しします。

ISISや、このグループと同じ思想を持つ同様の組織の最大の任務は、イスラムのイメージを壊すことです。イスラムほど、人間の権利に注目している宗教や宣言、声明は存在しません。ISISや同様のグループの犯罪や残忍な行動は、イスラムの教えとは明らかに異なるものです。イスラムは、このような行動を人類に対する明らかな犯罪と見なし、このような犯罪を行う人々は地獄の底に落ちるとしています。

西側政府は、ISISが何人かの西側の出身者の首を切って殺害した後、それ以上、ISISを制御することができなくなったことを知りました。そのため、表面的に、ISISを支援する立場を変更し、アメリカ主導の対ISIS有志連合を結成しました。アメリカとその同盟国は、ISISの制御力を失ってもなお、このタクフィール主義のグループが、イラクとシリアで自分たちの政策のために動くことを望んでいました。そのため、アメリカの一部の政府高官は、ISISとの闘争の長期化について語りました。ヘーゲル元国防長官は、次のように語っています。

「I S I Sの脅威は一時的なものではない。この組織は、一つのテロ組織以上に統率のとれた組織である。彼らは十分な装備と支援を受けている。独自のイデオロギーを持っており、非常に賢い軍事的な戦術や戦略を用いている。このグループは、我々がこれまでに目にしたものを超えている。恐らく彼らは、今後、再び組織を建て直し、新たな攻撃を仕掛けてくるだろう」

ヘーゲル元国防長官は、これに基づき、「アメリカ国防総省は、I S I Sとの戦い方において、長期的な計画を検討している」と語りました。アメリカのデンプシー統合参謀本部議長は、イラクを密かに訪問し、「I S I Sに対する戦いにおいて、力のバランスは変化している」と強調しながら、「このグループに対する戦いは、長い年月を要する可能性がある」と語りました。

アメリカの政府高官は、自分たちが武器を供与したI S I Sというテロ組織の力を誇張することで、地域に長期に渡って駐留し、いつでも好きな場所に介入できる口実を設けようとしています。アメリカとその同盟国が、中東計画を変更し、この地域の情勢不安を最大限に利用しようとする一方で、西側とその地域の同盟国が危機を作り出したその当初から、シリアとイラクでは、I S I Sやその他のテロ組織に対する真の戦いが始まっていました。

イラク政府がI S I Sとの戦いへの支援を要請した後、イランは真っ先に、この要請に行動で応えました。イランは、イラク政府軍に軍事顧問的な支援を行い、民兵組織を結成することで、I S I Sに対する強固な陣営を作りました。このような迅速な支援、クルド人部隊への支援により、アルビールの陥落が阻止され、バグダッド近郊からI S I Sを撤退させました。このような支援は、イラクの多くの戦略的な地域からタクフィール主義が掃討されるまで続きました。

イラクの政府高官やクルド人自治政府の関係者が認めているように、イランはどの国よりも早く彼らに支援を行い、I S I Sの進軍を妨げました。イラク・クルド人自治政府のバルザニ議長は、記者会見で、「イラン政府は、クルド人部隊に武器を供与した。我々は武器の支援を要請したが、イランはどの国よりも早く、その支援を行った」と語りました。イラク・イスラム最高評議会議長のハキーム師は、I S I Sとの戦いにおけるイラクへのイランの支援について、インタビューで次のように語っています。

「我々が忘れてはならないのは、この問題におけるイランの重要な役割、そしてアメリカ政府が常に、この役割を脇に追いやりようとし、それが明らかになるのを望まなかったことだ。イランは類まれなる惜しみない支援を行い、このイランのイスラム教徒の同胞たちは常に、軍事顧問の形であろうと、経済支援の形であろうと、我々への支援を怠ることがなかった。実際彼らは、最大限の支援を我々に与え、イラクの同胞たちと共にI S I Sと戦った。その結果、この暴力と恐怖は今、なくなろうとしている」

イラクの関係者はこれについて、注目すべき発言を行っています。「イランは、I S I Sの影響力の拡大に対抗する上で最大の役割を担った。これは、シリアでも顕著なことであり、ここで戦況を変えることができた。イラクでも、このタクフィール主義のグループの役割を変えることができた」

イラクとシリアで、I S I Sは、残忍な犯罪行為によって、宗教的、民族的な対立を煽ろうとしました。しかし、彼らの野蛮な行動により、様々な宗派や民族の間に、I S I Sと戦おうとする団結が生まれました。現在、シリアとイラクの対I S I S陣営には、この2つの国のすべての民族や宗派が参加しています。これに関するイランイスラム共和国の役割は、決定的なものでした。イランは常に、イラクとシリアの主権と領土保全を求めています。このような戦略の中で、イランは、I S I Sとの戦いに参加するすべての民族や宗派に対し、軍事顧問的、経済的な支援を行っています。

中東地域のみならず、世界中にも、タクフィール主義のテロ組織I S I Sの進軍を阻止する上でのイランの類まれなる役割を疑う者はいません。I S I Sの残忍な行動により、アメリカとその地域の同盟国のイランに対する偽りのプロパガンダや多くの事実が明らかになっています。西側政府は、36年もの間、イランはテロ支援国家で、地域に情勢不安を作り出していると偽りのプロパガンダを行っていました。彼らはこのようなプロパガンダによってイラン恐怖症を作り出し、ペルシャ湾岸地域を世界最大の兵器市場にしたのです。

イラクやシリアのテロ対策、特に世界で最も組織化されたテログループであるI S I Sと戦うためのイランの支援は、国際世論に対し、誰が真剣にテロと立ち向かっているのかを示し、テロとの戦いを謳う国々の主張が偽りであることを、すべての人に明らかにしました。イランは、テロによって1万7,000人という犠牲者を出しており、世界最大のテロの犠牲国となっています。その一方で、イランは世界最大のテロ対策国家です。世界にイランほどテロとの戦いに犠牲を支払、真剣だった国は他に存在しないでしょう。

アメリカとその同盟国の偽りのプロパガンダに反し、地域におけるイランの役割は、安定をもたらす建設的なものです。そのようなイランの役割がなければ、イラク、アフガニスタン、シリア、レバノン、今とは異なる状況に置かれ、より危機的な状況にあったことでしょう。これらの国で比較的安定が保たれているのは、これらの国の情勢を悪化させようとする国々の政策を崩し、安定を取り戻させようとするイランの賢明な政策があったからなのです。（了）

<http://bit.ly/1JjMxrQ>